

令和6年度 学校関係者評価

旭市立矢指小学校

1 学校教育目標

「健康で、豊かな心と自ら学ぶ意欲をもった児童の育成」

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ① だれもが尊重される潤いのある学校づくりに努める
- ② ふるさと旭に誇りをもち、社会に視野を広める子どもの育成を目指す
- ③ 確かな学力と学び続ける姿勢を育む
- ④ 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を進める
- ⑤ 豊かな人間性と思いやりの心を育む
- ⑥ 健やかな体と様々な危険に適切に対処できる知識や行動力を育む
- ⑦ 地域とともに歩む学校づくりを進める
- ⑧ 信頼される教職員を目指す

学校関係者評価委員
(学校運営協議会委員)

- 学識経験者
- 地域コーディネーター
- 矢指地区区長会長
- 矢指地区社会福祉協議会長
- 主任児童委員
- PTA代表

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

学校による自己評価の評価基準：A(満足できる:肯定的評価90%以上)、B(ほぼ満足できる:肯定的評価70~89%)

C(やや努力が必要である:肯定的評価50~69%)、D(努力が必要である:49%以下)

学校関係者評価の評価基準：A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

分野・領域	評価項目	評価の指標 (%)	自己評価	考察と改善に向けた取組	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校運営 教育課程	保: 子どもは、楽しく学校に行っている。	95.8	A	全校児童が「楽しく学校に通う」ことを学校としては目指しているため、児童の否定的評価2%に注目している。教職員一人一人が児童の心情に寄り添い、楽しい学校生活が送れるように努めていかねばならない。児童との面談や行動観察、アンケート調査、スクールカウンセラーとの連携、そして何よりも保護者との情報共有をとおして、児童が安心して登校できる環境をつくっていききたい。学校の行事については、児童の肯定的評価が昨年度より、5.7%上昇した。地域の協力を得て12年ぶりに開催された神幸祭への参加、本校を会場に実現したサーフィン教室や沖縄交流会、職業人と語る会の開催等、新たな行事を実施することができたことが影響していると感じる。地域や関係者の皆様に感謝したい。	A	A
	児: 学校はたのしい。	98	A			
	職: 子どもは、楽しく学校に行っている。	100	A			
	保: 学校の行事は楽しく充実している。	98.9	A			
	児: 学校の行事は楽しい。	97.1	A			
	職: 学校の行事は楽しく充実している。	100	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の取組の成果は大変よく、現状の考え方を継続実施でよいと考えます。 ・素晴らしい数値です。これを維持するだけでも苦労するでしょうが、学校経営が安定している限り不安はないでしょう。 ・自己評価・改善に向けた取組の適切さ共に昨年に続きオールAは素晴らしい一言です。学校側の努力の賜物です。子どもの勉強の出来・不出来よりも学校がいかに楽しいところかを子ども達が感じ取ってくれるかが大切です。常々思うことですが、今年の矢指小にとってこの一年はラッキーな年だったと思います。地域行事があったり、サーフィン教室という新しい試みがあったり、このことは、学校側にとってもコーディネーターにとってもただ相乗りしたに過ぎません。来たる7年度が尻つぼみにならないように学校・地域が一体となり精進してまいりたいと思います。 					
学習指導	保: 子どもは授業が楽しく、わかりやすいと言っている。	93.6	A	学校の授業については、ICT機器の効果的な活用を職員の研修テーマとして取り組んできた。旭市教育委員会のICT支援員の指導を受け、基礎的な学習ソフト(新出漢字や計算)からパワーポイントでのプレゼンテーション資料の作成など各学年が創意工夫してタブレット端末を積極的に活用してきた。知識を教え込む教育から児童が「主体的・対話的に学ぶ」教育へと授業スタイルの変容も求められている中、校内外の研修や教材研究に励み、指導力の向上を目指したい。家庭学習の習慣化については、保護者と児童・職員の評価に差が見られた。年度初めに「家庭学習の手引き」を配付し、発達段階にあった自主学習の進め方を紹介したが定着には結びつかなかった。9月には「家庭学習の充実に向けた取組」として、週2回自主学習プリントを配付し、自主的に取り組むことができる教材の提供を行った。また、学級便りにて熱心に取り組んでいる児童の紹介を行ったり、学級内の目標を設定して取り組んだり、工夫する様子も見られた。しかし、保護者の肯定的評価が昨年度より下回ったことから、家庭学習の量やタブレット端末の持ち帰り頻度の増加等、対策を講じたい。読書活動については、今年度力を入れてきた。週3回、朝の読書タイムを設けたり、図書館司書と協力して図書イベントを行ったり、読書賞についても昨年度から継続して取り組んできた。また、家庭でも読書に取り組めるように図書室の蔵書を持ち帰る機会を増やし、家読講演会も開催した。児童の肯定的評価は7月より8.8%、保護者については22.7%上昇したが、習慣が身につけている児童とそうでない児童の二極化が課題である。図書館司書との連携、図書室・図書館の有効活用、読み聞かせの充実、家庭への啓発、読書タイムや読書賞の継続を行い、本を好きになる児童を増やしていきたい。	B	A
	児: 授業が楽しい。	95.2	A			
	職: 子どもは授業がわかりやすく、楽しく学んでいる。	92.3	A			
	保: 子どもは家庭学習の習慣がついている。	61.1	C			
	児: 家で学習をきちんとしている。	87.5	B			
	職: 子どもは家庭学習の習慣がついている。	92.3	A			
	保: 子どもは読書の習慣が身についている。	76.8	B			
	児: 読書の習慣が身についている。	84.7	B			
	職: 子どもは読書の習慣が身についている。	92.3	A			
	保: 学校は学力向上のために熱心な取組をしている。	92.6	A			
	児: 学校は学力向上のために取り組んでいる。	97.1	A			
	職: 学校は学力向上のために熱心な取組をしている。	100	A			
	保: 学校はICT機器を活用している。	91.6	A			
	児: 学校はICT機器を活用している。	95.2	A			
職: 学校はICT機器を活用している。	100	A				
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても学級担任や学年スタッフによって温度差が生じてしまうのが学習指導です。これはある程度仕方ない。学力に個人差があり読み書きに個人差があるように、読書にもその人がどうしても反映されます。従って、教師側の可能な手立てを組織的に講じることが大切だと思います。結果の評価より、この手立ての評価にこだわられるとさらに向上すると思います。 ・気になるところは、「子どもは家庭学習の習慣がついている」とのことについて保護者評価がCであることです。教職員・児童ともそれぞれ評価を認めているにも関わらず家庭での評価が低いと言うことは、学校現場と家庭での「住環境」の違いにあるのではないだろうか。言い換えれば「家庭学習」という物に対する学校側と保護者の意識のズレにあるのではないのでしょうか。今回のアンケート結果は家庭にも配付されているとのこと。「生徒指導特別支援教育」の「子どもは正しい言葉遣いや挨拶ができる」での職員評価Dと共に、この2点に絞って保護者への再アンケートを実施されることを望みます。 ・タブレット機器の故障の際、対応をスムーズにいただけると助かります。 					
生徒指導 特別支援 教育	保: 子どもは正しい言葉遣いやあいさつができています。	76.8	B	「言葉遣いやあいさつ」については、保護者、児童、職員の評価に大きな差が生じた。児童の肯定的評価は昨年度よりやや向上しているが、保護者は6.8%、職員は32.9%と大きく下回った。職員の肯定的評価が大きく下回った原因を探るため、「言葉遣いやあいさつ」に特化した職員アンケートをとり、生徒指導推進委員会を開いて改善策を検討した。教師の率先垂範はもちろんのこと、道徳や学級活動の授業で相手を思いやる言葉遣いや気持ちのこもったあいさつについて、考え、議論する時間をつくること、高学年には学校の課題として問題提起し、改善策を主体的に考え、児童のアイデアを実践する場を設けることに取り組んでいくことを共通理解した。これらの取組を家庭とも情報共有し、連携しながら礼儀正しい児童を育成していきたい。教師による「児童理解・対応」の質問項目は、肯定的評価は児童・保護者ともに昨年度とほぼ変わらなかった。しかし、教師が児童理解に努めていると思っても、児童・保護者にとって、その対応や支援方法が適切であるかを検証していかねばならない。児童の対応や支援方法については校内の職員が共通理解を図ったり、複数の目で多面的に対応方法を検討したり今後も様々な工夫をしていきたい。また、児童とのコミュニケーションの結果を見てもわかるように、子ども達は悩みごとを保護者の方に相談するケースが多い。引き続き、学校と家庭が情報共有を密に行い、児童理解に努めていきたい。	B	A
	児: 正しい言葉づかいやあいさつができています。	90.4	A			
	職: 子どもは正しい言葉遣いやあいさつができています。	85.5	D			
	保: 子どもは早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についている。	81.1	B			
	児: 早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についている。	92.3	A			
	職: 子どもは早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についている。	76.9	B			
	保: 学校は子どもをよく理解し、適切に対応している。	92.6	A			
	児: 学校(先生)はみんなのことをよくわかっている。	97.1	A			
	職: 子どもをよく理解し、適切に対応している。	100	A			
	保: 家庭では子どもと十分にコミュニケーションが図れている。	93.7	A			
児: 家の人と普段十分に話ができている。	98.1	A				
職: 保護者と児童は十分なコミュニケーションがとれている。	92.3	A				
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉づかいとは、おそらく人を不快にさせない、傷つけない言葉がけではないでしょうか。正しい敬語とか上下関係を示す言葉が必ずしもこれからの社会で必要なかは疑わしい。言葉はその人全体を背負うものであることを子ども達に伝えて欲しいと思います。 ・目上の人(よく関わる人)とのメリハリのある関係性を望みます。(壁をつくらぬよう) 					
道徳 人権教育	保: 学校はいじめのない学級作りに取り組んでいる。	94.7	A	児童の肯定的評価が昨年度末より、やや向上したことについては、教職員が児童一人一人を大切に思い、接してきた成果だと感じている。しかし、児童同士のまだ解決されていない課題もあり、ご心配をおかけしている。全職員が情報を共有し、アンケートや聞き取り、スクールカウンセラーによる全員面談等を行ってきた。休み時間や掃除の時間等も職員が児童と共に過ごすよう心がけてきたのだが、未だに解決されていない事例もある。児童一人一人と向き合う教育確保の時間確保や円滑な人間関係を築くための授業の導入、相手の気持ちを考え、自己を振り返る道徳の授業実践を行うとともに定期に実施しているアンケート結果を関係職員が共有し、相談体制を素早く構築したい。	A	A
	児: 先生はいじめのない学級作りに取り組んでいる。	98	A			
	職: いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	100	A			
	保: 学校は保護者や子どもの相談に対し、適切に対応している。	94.8	A			
	児: 先生は相談にのってくれる。	99	A			
	職: 保護者や子どもの相談に対し、適切に対応している。	100	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい数値です。これを維持するだけでも苦労するでしょうが、学校経営が安定している限り不安はないでしょう。 					
保健・体育 安全管理	保: 学校は体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	94.7	A	今年度も高学年の陸上練習、全校で取り組んだ水泳、持久走、縄跳び運動により、児童は運動に親しんだ。しかし、体力テストの結果を見ると持久力や握力が県平均より劣り、特に女子の体力に課題が見られた。業間の縦割り活動による運動時間の確保や教科体育での運動量の確保に力を入れていきたい。感染症による学級閉鎖は現段階で1学年1日である。保護者の方には、学校便りや保健便りにて体力向上、健康管理についての学校の取組を情報提供していきたい。「登下校や校内生活の安全」については、高い評価をいただいた。登校時には地域のボランティアさんや駐在さんにお世話になり、安全な道路横断をご指導いただいたり、農協跡地を駐車場として活用させていただいたり、地域の皆さんのご協力に感謝している。また、教育活動内で起こったけがについては、保護者の方に確実に伝えるように心がけてきた。月1回の安全点検や毎朝の敷地点検を今後も継続し、事故やけがの防止に努めたい。	A	A
	児: 先生はみんなの体力がつくように取り組んでいる。	97.1	A			
	職: 体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	100	A			
	保: 学校は健康管理に十分取り組んでいる。	93.7	A			
	児: 先生はみんなが健康でいられるように取り組んでいる。	99	A			
	職: 学校は健康管理に十分取り組んでいる。	100	A			
	保: 学校は登下校や校内生活の安全に十分対応している。	98.9	A			
	児: 学校は安全だと思う。	98	A			
職: 登下校や校内生活の安全に十分取り組んでいる。	100	A				
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動での時間をもう少し増やしていただけるといいかもしれないです。 ・素晴らしい数値です。これを維持するだけでも苦労するでしょうが、学校経営が安定している限り不安はないでしょう。 					
保護者・ 地域との 関わり	保: 学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	98.9	A	保護者の方に月行事を早い段階でお知らせするように努めた。各学年の教育活動の様子を写真入りで伝えたり、ホームページの「ニュース&トピック」に掲載したり、タイムリーな情報提供を行ってきた。予定の変更や提出物については、日々の連絡帳で正確に伝えて欲しいという声もあったので、確実に実践したい。また、地域学校協働活動も3年目となり、多くの保護者・地域の皆さんに学校支援のご協力をいただいた。そのおかげで、地域の伝統行事に参加させていただいたり、安全に学校行事を行うことができた。ふるさと教育や地域とともに歩む学校づくりを実現することができた。	A	A
	職: 学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	100	A			
	保: 学校は家庭や地域と協力して活動している。	98.9	A			
	職: 学校は家庭や地域と協力して活動している。	100	A			
学校関係者による 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の学校をよくしようという努力に頭が下ががる思いでいっぱいです。子ども達に限らず、先生方一人一人が学校が楽しい、さらには日々の生活、家庭が楽しく充実していることが大切ではないかと思っております。自分自身が楽しくいられることでその輪はどんどん広がっていくと信じております。ですので、あまり頑張りすぎず、日々をお過ごしいただければと思っております。もうすでに頑張っているのですから。本当にありがとうございます。 ・朝の活動(横断歩道での見守り)に携わってくれている方々に直接お礼を伝える機会があると嬉しいです。 ・素晴らしい数値です。これを維持するだけでも苦労するでしょうが、学校経営が安定している限り不安はないでしょう。 					